

議会活性化推進特別委員会 発言内容【平成 29 年 8 月 3 日】

- ・中途半端な導入であればペーパーレスにつながらない。導入するのであれば、芽室町のような入口から出口までしっかりとしたシステム構築が必要。(水間委員)
- ・町民への情報公開について、求めている人は情報を得ることができるが、発信をする部分ではもう少し工夫が必要。(水間委員)
- ・芽室町議会のようなコストをかける必要性について少し疑問がある。(水間委員)
- ・リアルタイムで情報を更新することは良いが、発信する情報量が多ければよいということでない。住民ニーズをきちんと調査して、何を発信するのか考えていくことが必要。(水間委員)
- ・途中半端な導入であればゼロが良い。導入するのであればしっかり組んだ方がよい。(水間委員)
- ・市民感覚にあわせた感覚のずれを、執行機関との議論の中で見える化し、情報提供の中で解決できると期待している。(関野委員)
- ・議会と市民の距離を縮めるため、感覚のずれを、ICTを活用した情報の流れに取り入れて。(関野委員)
- ・議会が何をしているのかわからない。その中で情報を共有できるもの、発信できるものがある。(関野委員)
- ・災害時の相互情報交換において、得た情報を事務局に流す、事務局から情報をもろうといった相互情報交換を行いたい。(黒岩委員)
- ・芽室町議会が 400 万円をかけた費用対効果がどのくらいあるのか疑問がある。(今委員)
- ・住民が何を求めているのか、つぶさに知らなければならないことが先決問題である。(今委員)
- ・タブレットを使うことにより住民に情報提供できる理由が良くわからない。(岡野委員)
- ・議員 18 人と事務局に iPad を 500~600 万円かけて提供したとき、住民から「どうして必要なのか」と意見が出そうである。(岡野委員)
- ・iPad を持つことで情報をいち早く得ることができるので、タブレット導入は進めるべきである。(岡野委員)

- ・富良野市議会の中でも、市民とつながりを持つようとする部分では、多種多様な中で活用がされている。我々から発信することがどのように受け止められるのか。共有できる課題なのか。それを怠っては我々の作業がなかなか住民に伝わらない。(萩原副委員長)
- ・将来、この部分に投資するとした場合、前段で我々がやらなければならないことがある。その部分を整理しないと、予算計上してもなかなか認めてもらえないものがある。(萩原副委員長)
- ・議論や住民への伝え方がどのように深まっていくのか、さらには議会側の政策に反映させていくためのイメージを統一することが大切である。具体化したものがICT推進計画と感じた。(渋谷委員長)